

Nagoya University Medical Museum  
Small Exhibit 20th

ミニ展示会

# 後藤新平 -名古屋活躍編-



## 特別講演会

2019年 7月23日(火) 15:30-17:00 (名古屋大学医学部基礎研究棟1階 会議室2)

パブリックヘルス = 人々の健康を守る  
～後藤新平の築いた「公衆衛生」から「グローバル・ヘルス」へ～

青山 温子(名古屋大学名誉教授・名古屋学芸大学特任教授)

入場無料

2019 6. 7 FRI - 11. 29 FRI

平日 9:00-20:00 \*8月8-23日は9:00-17:00

土 13:00-17:00

休館日 日・祝日、8月10、13-14、17、24、26-31日

名古屋大学附属図書館 **医学部分館** 2階入口ホール

問合せ先: 名古屋大学附属図書館医学部分館

名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL 052-744-2505, library2@med.nagoya-u.ac.jp

記念すべき第20回となる今回は、名古屋大学医学部の礎を築いた人物の一人でもある後藤新平(1857-1929)を取りあげます。後藤新平は、内務省官僚、台湾民政長官、満鉄総裁、東京市長を歴任し、近代日本を代表する官僚・政治家として広く知られていますが、そのキャリアのルーツは名古屋時代の医師でした。

1857(安政4)年に陸奥国胆沢郡塩釜村(現 岩手県奥州市水沢区)の留守氏家臣の家に生まれた後藤は、福島県の須賀川医学校を卒業後、1876(明治9)年、19歳の時に愛知県公立病院(名古屋大学医学部附属病院の前身)に三等医として着任しました。当時、病院にはオーストリア人医師ローレツ(1846-1884)と病院副教師兼医学所教師兼通弁の司馬凌海(1839-1879)が在籍しており、二人からは、後藤のその後のキャリアにつながるような衛生行政思想等の影響を大いに受けました。明治14年、弱冠24歳で愛知県公立病院長兼公立医学校長に就任し、1883(明治16)年内務省衛生局に入るまで、名古屋で衛生行政の推進に尽力しながら医療活動に従事していました。

「ミニ展示 後藤新平—名古屋活躍編—」は、愛知医学校時代を中心に、名古屋における後藤新平の足跡をたどるものです。国内で最初に西洋式麻酔を使った外科手術を描いたとされている「明治初年愛知県公立病院外科手術の図」や、『国家衛生原理』をはじめとする著書、後藤が考案した卒業証書、写真、絵葉書などを展示します。

また、展示期間中には、後藤が行政トップとして携わった公衆衛生(パブリックヘルス)の歴史について、特別講演会も開催予定です。ぜひご来場ください。

## 特別講演会

### パブリックヘルス = 人々の健康を守る ～後藤新平の築いた「公衆衛生」から「グローバル・ヘルス」へ～

日時: 2019年7月23日(火) 15:30-17:00

会場: 名古屋大学医学部基礎研究棟 1階 会議室2

#### 青山 温子(名古屋大学名誉教授・名古屋学芸大学特任教授)

名古屋大学医学部卒、同大学院医学研究科修了、医学博士。専門分野は国際保健医療学・公衆衛生学。

基礎医学研究、産婦人科臨床に従事後、国立国際医療センター国際医療協力局にて政府開発援助事業、さらに世界銀行にて中東地域の保健医療分野開発事業に携わった。2001年から2019年まで名古屋大学大学院医学系研究科教授として、低中所得国における生活習慣病に関する研究などを先駆けて進め、修士課程公衆衛生コース開設に尽力した。また、外務省 ODA 総合戦略会議委員、JICA 外部有識者評価委員会委員、厚生労働省国際協力事業評価検討会会員、国立感染症研究所評価委員、世界エイズ結核マラリア対策基金技術評価委員会委員などを歴任した。

主な著書:「開発と健康—ジェンダーの視点から(有斐閣)」、「シリーズ国際開発 第3巻:生活と開発(日本評論社)」、「Economic and Policy Lessons of Japan to Developing Countries (Palgrave Macmillan)」、「Reproductive Health in the Middle East and North Africa: Well-Being for All. (The World Bank)」など。

#### 近代医学の黎明デジタルアーカイブ

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/>

名古屋大学医学部史料室に所蔵している史料をデジタル化し、「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」として、インターネットで公開しています。ぜひご覧ください。

#### 資料ご寄贈のお願い

みなさまがお持ちの医学・医療史に関連する資料がありましたら、ぜひご寄贈いただきますよう、お願いいたします。

